CHILDHOOD MYOSITIS ASSESSMENT SCALE (CMAS)

スコア合計 点

			スコア合計	点
語作は、所を含めらないように関連を発し、そのようの姿勢でいるようを でする。共の代表によった人間知ら、所有に関連するのは、できるくらいの間間が利益 のでする。中は中に、特と機関をの問題は何味になるとくらいの間間が利益 のでする。中は、日本とは、一般ではないできる。 単型につかった。 を記していると対象でするを含むして、はない。 のでするが自然を含めずでは全体には、一般ではない。 を記しからいるのであるとし、そのなるとなるというののできなとはして、同様のない。 のでするのであるとし、そのなるとなるというののできなとはして、同様のない。 のでは、新聞が同かっては関係を関すった。 のでは、までは、まではないできる。 のでは、までは、まではないできる。 のでは、までは、ないできる。 のでは、までは、ないできる。 のでは、までは、までは、ないできる。 のでは、までは、ないできる。 のでは、までは、ないできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいできる。 のでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、はいでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでものでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	1. 頭部挙上		,	
議議会に対応的ない。 「大阪田田のの古田田のの古田の田の田田の田田の田田の田田の田田の田田田田の田田田田		検者は、肩を動かさないように頭部を挙上し、そのままの姿勢でいるよう指示する。床から頭が上がった瞬間から、床に頭をつけるまでの時間を測定する (最大120秒)。 ※サポートはせず、床と被験者の後頭部の間に指が入るくらいの隙間があれば	4点: 60-119秒間 3点: 30-59秒間 2点: 10-29秒間 1点: 1-9秒間	点
製造されて関係を構造され関係の状態。 現在からからなどは関 ・ 一部できな体とは、	2. 下肢挙上(高さ)			
機能者は関係でかれ、 様性と、有す数と体験を含めたまま足具につかの高さになったところから時 がわからないこれを含められばなくなった他の、相互型のからないである。 素材に出げないようには良し、効果に多とはようとした場合は出からは、他の1945円 素材に出げないようには良し、効果に多とはようとした場合は出からは、近に1945円 素材に出げないようには良し、効果に多とはようとした場合は出からない。 素材に出げないまうにはし、対理が多して元の高さに加すよう事実ってもらう。 4. 特別位から技術と、有料質的を開始させ、右手音が振り下にあるを思 機能力、信仰を加工用しつがもようにに施尿りをして、途でで如原を体かった。 の引きはように対象と対するとようにに施尿りをして、途でで如原と体験した。 を使む、、気能を加工用しつがもように上に施尿りをして、途でで如原と体験した。 の引きはように対象とがあるがでは、一般を使むすに上格を起こなと、 が他のであるを変と が地がいで表とない。 まるとは現場がよるに対象とよう事なと、 がは、そればすることも楽しく、右腕の引きはきも不可能 を検討することも楽しく、右腕の引きはきも不可能 を使むます。 対象に関係を検討することも楽しく、右腕の引きはきも不可能 を検討することも楽しく、右腕の引きはきも不可能 を検討することも楽しく、右腕の引きはきも不可能 を検討することも楽しく、右腕の引きはきも不可能 を表しておいるとないがなが、からか音が上とからない。 のできれなり、 のまると対象があるよびとようにより、大部がなと対象をなって、対した。 のできれなり、 のまるとは、不可能 を対象とないとは、不可能 のまるとは、不可能 のまるとは、不可能 を対象とないがないが、かくらか音のしたり時間がからない。 があるとは、手が関係を対象とで見るとないがなら上体を起こし、 のまるとは、手が関とないがないが、かくらか音のしたり時間がからない。 があるとは、手が関係のないが、よいくらか音のしたり時間がからない。 があるとは、手が関係のからなどして辛うじて可能 を記し、対象をはないがないが、かくらか音のしたり時間がからない。 を言と、解析を使むないないでは、ないでは、自然では、まないでは、 は、等うじてとまませいなが、かくらか音のしたり時間がからな。 を言と、解析を必定とないなが、が、いくらか音のしたり時間がからない。 があるとないがないが、かくらか音のしたり時間がからないでは、自然では、まないとないがないが、かくらか音のしたり時間がある。 またし、手がとは、表にないでは、神が関係をからなどして辛うじて可能 を記し、対象をはないなが、かくらか音のしたり時間がからないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないがないが、かくらか音のしたり時間がある。 は、持ちないまないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないがないが、かくらか音のしたり時間がある。 または、対象をとないないが、からなどして辛うじて可能 を記し、対象をとないなが、かくらか音のとないが、まないとないがない。 は、持ちないなが、かくいとないでは、まないとないがないが、かくらか音のとないがないが、かくらかでは、まないとないがないが、ないが、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないとないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないとないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、ま		被験者は下肢を伸展させた仰臥位の状態。 検者は被検者の右下肢を持ち上げ、床から 足長2つ分の高さを把握し、一旦下肢を休ませる。 検者は被検者に対して握り拳や玩具などで足長 2つ分の高さを示し、その高さまで足を上げるよう 指示する(臥位の状態でボールを蹴るような仕草)。 ※骨盤が動かたければ膝を曲げてもより、	1点: 挙上は可能だが、足長2つ分の高さまでは挙上不可能	点
解析するとと指揮を使用を含ままま取りの含素させ上げて、可能な振り、振い行うないというというない。 1994年以上 1997年以上 199	5. TATE (**(N)			
25. 何の開節なく後返りして、難なくお飯を引き抜き、完全な簡単な形式を設めたして、適中で信配を体的が		検者は、右下肢を伸展させたまま足長1つ分の高さまで上げて、可能な限り維持するように指示する(最大120秒)。足長1つ分の高さになったところから時間を計測する。膝を伸ばし続けられなくなった場合、床に踵がついた場合、120秒経った場合に終了とする。 **膝は曲げないように注意し、過度に足を上げようとした場合は止めさせる。 **骨盤は動かさない。	4点: 60-119秒間 3点: 30-59秒間 2点: 10-29秒間 1点: 1-9秒間	点
接続され場所にで、右計期から開きせ、不育音が場の下にあるが整 機者は、有能を成に対しつけるようにで変わっして、金色では可能では他を含める。 5 明現位から景堂位 第本する。 5 明現位から景堂位 第本する。 5 明現位から景堂位 第本がある場合とは、海外のに関係化になった際に右腕が自由に動かせる状態になるよう。 5 明現位から景堂位 第本があるのと音を作る。 海野がよ手や町、反動を使わずに上体を起こす。 上体を振けることも難しく、右腕の引き抜きも不可能 を起こす物、手は大規に置いたままにして、スポンなどは損まない。 計は床につけてはいけない。 2 手を反対側の間に破せ、胸の前で顔を交叉を含さま球を保ケンまま、同様 に上体を起こす。 非に動から影性でもよいが、手は肩に触れたままでなくては な方ない。 3 第を行う際に破が、胸の前で顔を交叉を含さまなを保ケンまま、同様 に上体を起こす。 非に動から影性でもよいが、手は肩に触れたままでなくては な方ない。 3 ②を行う際に後が影響を作りますに行う。 3 ②を行う際に後が影響を作りますに行う。 6 即現位から発性位 2 本を振りたとまではなかないが、いくらか苦労したり時間がから 第本や物は必要に応じて自由に使って良い。 5 年のまなとから両下肢を含ますと呼吸がしなるよう指示する。 5 年のまなとから両下肢を含ますと呼吸がしなるよう指示する。 5 年のまなとから両下肢を含ますと呼吸がしなるよう指示する。 5 年のまなとから両下肢を含ますと呼吸がしなるよう指示する。 5 年のまなとが、実践がないが、いくらか苦労したり時間がからならなして守うじて可能 2 ままを表しま、非常があるなどして守うじて可能 2 ままを表しまではかないが、いくらか苦労したり時間がからないが、自然を発していまなどとでありたり時間がからないが、自然を表しまではないないが、いくらか苦労したり時間がからないとないないが、自然を表しまでは、ままと表しまでないまがないが、からなどして守らじて可能 2 ままを表しま、非常があるなどしてなるように可能 2 ままを上面になるまで関節を発上する。 2 ままとも重視になるまで関節を発上する 2 ままとも重視になるまではずいないが、いくらか苦労したり時間がからなどして守らじて可能 2 ままとも関節があるなどして守らじて可能 2 ままとも面になるまではずいないが、加えまでは等上でな 2 ままとも面になるまではずいなが、現上までは等上で できないまがないまないないが、加えまでは等上でな 2 ままとも面になるまではずいないが、現上までは等上でする 2 ままにおいまないないないないないないないないないないないないないが、いくらか苦労したり時間がからなどして守らして可能 2 まましまがよりないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	4. 仰臥位から腹臥位への寝	返り		
被験者は6ペターンの上体起こしを行う。		検者は、右腕を床に押しつけるようにに寝返りをして、途中で右腕を体幹か ら引き抜き、最終的に腹臥位になった際に右腕が自由に動かせる状態になるよ	臥位が可能、 2点: 寝返り途中での右腕の引き抜きに時間を要するが、最終的に 右腕を引き抜いた状態で完全な腹臥位が可能 1点: 体を傾けることは難なく可能だが、右腕が床と体幹の間で動 かせない状態となり、完全な腹臥位が不可能	点
① 即向けから段関節・展開節を伸展させた状態から手を大規に版く。検育は を起こす側、手は大場に置いたままにして、スポンなどは相まない。肘は寒につじてはいけない。② 事を反対側の肩に載せ、胸の前で腕を交叉させた状態を保ったまま、同様 に上体を起こす。所は動から離れてもよいが、手は肩に触れたままでなくては ならない。② 頭もしくは後頭部の後ろで両手を組みながら上体を起こす。③ ②を行う際に検者が足音を押さえずに行う。③ ②を行う際に検者が足音を押さえずに行う。⑤ ③を行う際に検者が足音を押さえずに行う。⑥ ③を行う際に検者が足音を押さえずに行う。⑥ ③を行う際に検者が足音を押さえずに行う。 ②を行う際に検者が足音を押さえずに行う。 ②点: 章もじ、第とせついかないが、いくらか苦労したり時間がかる。 ②点: 章もじ、第とせついが、いくらか苦労したり時間がかる 「点: 菩哉したり、時間がかかるなどして辛うじて可能の点: 自力では不可能(手助けが必要) 「点: 菩哉したり、時間がかかるなどして辛うじて可能の点: 自力では不可能(手助けが必要) 「点: 菩哉は頭上はで挙上可能だが、射が風曲する 「点: 手音は頭側関節の高さまで挙上可能だが、頭上までは挙上不可能 「注除する」」(点: 手音は頭側関節の高さまで挙上不可能	5. 仰臥位から長坐位			
被験者は検査台で仰臥位の状態。 検者は、端坐位(検査台から両下肢を落とす坐位)になるよう指示する。 ※手や腕は必要に応じて自由に使って良い。 3点: 何ら苦労せず可能 2点: 辛うじてとまではいかないが、いくらか苦労したり時間がかかる 1点: 苦戦したり、時間がかかるなどして辛うじて可能 0点: 自力では不可能(手助けが必要) 7. 上肢拳上(高さ) 被験者は坐位の状態。 検者は、両肘を伸ばしたまま手首が頭上にくるように、両上肢を正面に拳上 するように指示する(小さな子には玩具を頭上に差し出し、両手で掴むように 指示する)。 3点: 何ら苦労せず可能 2点: 辛うじてとまではいかないが、いくらか苦労したり時間がか かる 1点: 苦戦したり、時間がかかるなどして辛うじて可能 0点: 自力では不可能(手助けが必要)		① 何向けから股関節・膝関節を伸展させた状態から手を大腿に置く。検者は被検者の足首を押さえ、被験者は手や肩、反動を使わずに上体を起こす。上体を起こす間、手は大腿に置いたままにして、ズボンなどは掴まない。肘は床につけてはいけない。 ② 手を反対側の肩に載せ、胸の前で腕を交叉させた状態を保ったまま、同様に上体を起こす。 肘は胸から離れてもよいが、手は肩に触れたままでなくてはならない。 ③ 頸もしくは後頭部の後ろで両手を組みながら上体を起こす。 ④ ①を行う際に検者が足首を押さえずに行う。 ⑤ ②を行う際に検者が足首を押さえずに行う。	① ~ ⑥でそれぞれ 1点: 脊柱が床と垂直になるまで、上体起こしが可能(長坐位) 0点: 不可能	<u>1</u> .
被験者は検査台で仰臥位の状態。 検者は、端坐位(検査台から両下肢を落とす坐位)になるよう指示する。 ※手や腕は必要に応じて自由に使って良い。 7. 上肢拳上(高さ) 放験者は坐位の状態。 検者は、両肘を伸ばしたまま手首が頭上にくるように、両上肢を正面に挙上するように指示する(小さな子には玩具を頭上に差し出し、両手で掴むように指示する)。 3点: 財を伸展させたまま床と垂直になるまで両腕を拳上可能 2点: 手首は頭上まで拳上可能だが、肘が屈曲する 1点: 手首は頭上まで拳上可能だが、所が屈曲する 1点: 手首は頭上まで拳上可能だが、頭上までは拳上不可能 0点: 手首は肩鎖関節の高さまで拳上可能だが、頭上までは拳上不可能 0点: 手首は肩鎖関節の高さまで拳上可能だが、頭上までは拳上不可能	6. 仰臥位から端坐位		T	
被験者は坐位の状態。 検者は、両肘を伸ばしたまま手首が頭上にくるように、両上肢を正面に挙上 するように指示する(小さな子には玩具を頭上に差し出し、両手で掴むように 指示する)。	7. 上肚类上/亩+>	検者は、端坐位(検査台から両下肢を落とす坐位)になるよう指示する。	2点: 辛うじてとまではいかないが、いくらか苦労したり時間がかかる 1点: 苦戦したり、時間がかかるなどして辛うじて可能	点
依	- 工队学工(同で)		I	
		検者は、両肘を伸ばしたまま手首が頭上にくるように、両上肢を正面に挙上 するように指示する(小さな子には玩具を頭上に差し出し、両手で掴むように	2点: 手首は頭上まで拳上可能だが、肘が屈曲する 1点: 手首は肩鎖関節の高さまで拳上可能だが、頭上までは拳上不 可能	点

上肢挙上(時間) 被験者は坐位の状態。 検者は、両手首が可能な限り高くなるように両上肢を同時に挙げ(理想的に は頭の真上)、その姿勢を可能な限り維持するように指示する(最大60秒間)。 手首が頭上に達したところから時間を測定し始め、頭上から下がった時点で計 4点: 60秒間以上 3点: 30-59秒間 測終了とする. 2点: 10-29秒間 ※計測中は前腕が床と垂直になるよう促し、そこから前腕が傾いても手首が頭 1点: 1-9秒間 トにあれば計測を続ける。 0点:腕を頭上に一瞬たりとも維持不可能 ※被験者は努力しなければならないが、肘を完全に伸ばすのは難しいことを 知っておく。 ※計測中、頸椎は自然な位置に保つ。 ウ付から床に座る 3点:何ら苦労せずに安全に座ることが可能 2点:やや緩慢であったり、バランスが少し崩したり、大腿や床に 手をつくなど苦労する様子だが、椅子の支えなしで安全に座るこ 被検者は立位の状態。 検者は、被験者に支えがない状態で、その場に安全に座るように指示する。 ※被検者がためらった際、検者は促してはならない。その場合、椅子を用意す レが可能 1点: 椅子の支えを許可すれば座ることが可能(支えなしでは安全 に座ることは不可能) 0点: 座ることが不可能(座る動作ができず)、椅子の使用を許可し ても怖がり、嫌がる。 10. 腹臥位から四つ這い 被験者は腹臥位の状態。 4点: 四つ這いでバランスを保って、体幹の高さまで片脚の挙上が ① 検者は、四つ這いの体勢(両手と両膝に全体重がかかるよう)になるように 可能 指示する 3点: 四つ這いを安定して保持して、前に進むことが可能 2点: 顔を正面に向けて四つ這いの保持は可能だが、前進は不可能 ② 四つ這いになれたら、背筋を伸ばして真正面が見えるように顔部を挙上し (床面と顔が垂直に)、その姿勢を保持するよう指示する。 ③ そのまま前に(手と膝がすべて別の場所になるよう)進むよう指示する。 1点: かろうじて弱々しく四つ這いを保持できるが頭部挙上は不可 ④ すべて可能であれば、四つ這いの状態から片脚が床に水平になるよう伸展 一 0点: 四つ言いの姿勢が不可能 するよう指示する。 11 膝立ちから立ち上がり 4点: 苦労なく立ち上がり可能 被験者は膝立ちから、床に手をついてもよいので、右膝を床に付けたまま、 3点: 膝や大腿、床に手をつかずに立ち上がり可能だが、苦戦した な数者はW ようから、 かに子を ソント もまかった、 石脈を小に下げた 左膝関節とともに90度屈曲させ、 左足を正面に出した状態。 検者は、この姿勢から立位をとるように指示する。 り、緩慢である場合 り、被反と、のの物は 2点: 片手もしくは両手を膝や大腿、床につければ立ち上がり可能 1点: 椅子に手をつけば立ち上がり可能 ※可能であれば手は膝や大腿、床にはつかないようにする。支えがないと難し い場合は椅子を用意する。 0点: 椅子に手をついても立ちあがり不可能 12. 椅子からの立ち上がり 被検者は年齢相応なサイズ(下腿が床と垂直になる座り方で、大腿遠位部が 近位部よりわずかに高くなる座面の高さ)のアームレスチェアに坐位となる。 検者は、起立するよう指示する。 ※坐位の際の脚の広げ方は問わないが、爪先は正面を向いた状態とする(脚は 4点: 苦労もなく起立可能 3点: 手を使わずに起立可能だが、苦労している様子 (緩慢、ぎこちない、反動が必要など) 2点: 片手もしくは両手を膝や大腿に置けば起立可能 1点: 椅子に手をつけば起立可能 ※必要に応じて前屋してもよい。 0点: 椅子に手をついても起立不可能 13. 踏み台へ登る 被給者は立位となる。 3点: 支えなく登ることが可能 被検者の足元に年齢相応な高さの踏み台(足底から膝の高さの1/3くらい 2点: 膝や大腿に手をつけば登ることが可能 1点: 片手をテーブルや検者の腕などを支えにすれば登ることが可 年長児であれば15-20cm程)を足元に置き、支えとするためのテーブルを横 に置く ー・。 検者は、テーブルや検者もしくは被検者自身の膝や大腿に手をつかないよう --0点: テーブルや検者の助けがあっても登ることが不可能 に、踏み台を昇るように指示する。 14. 立位から床のペン拾レ 3点: 問題なく可能 2点: やや苦労するが可能 被験者は立位となる。被検者の足元にペンを置く。 検者は、前屈して床に置いたペンを拾い、元の立位に戻るよう指示する。 ・低く膝や大腿に手をつける、やや緩慢な動作など) 1点:拾ってから立位に戻る際に、膝や大腿に手をつかないと不可 --0点: 拾うことも立位に戻ることも不可能